

《大月市—地域づくり検討フロー》

グループ5

第6次総合計画

《将来像》

「郷土に愛着と誇りを持ち、豊かな自然の恵みを生かし、一人ひとりにやさしく、安全で安心して、健康で住み続けることのできる活力あるまち」

社会動向

- 少子・高齢化から人口減少社会へ
結婚や子育てがしやすい環境づくり、高齢者の生きがいや介護対策など、安心できる高齢社会対策
- 価値観の多様化へ
職業や生き方、家族形態の多様化、職業・結婚・生活様式などでの選択や自由度の拡大
- 共同体や生活単位の再構築へ
地縁型コミュニティから新しい共同体づくりに向けた検討
- 地域間の競争の時代へ
ふるさと納税、特区の推進など独自の地域づくりによる地域間競争
- 安全・安心重視へ
自然災害に対する防災体制、防犯や交通安全など生活安全対策の強化
- 循環型の環境社会へ
廃棄物対策の強化、リユース、リサイクルを基本の資源循環型社会の構築、自然環境の保全・継承
- 高速交通ネットワーク化とグローバル化社会へ
東京五輪、リニア整備、高速道の延伸など意思に関わらず、様々な分野での国内外の人々との交流機会の拡大、社会動向の日常生活への影響
- 情報・物流のネットワーク社会へ
行動圏の拡大の一方、家にいながらの買い物や消費行動など情報やモノの移動性の高まり
- 新しい助け合いや社会保障の視点の構築へ
行動圏の拡大や情報通信などの利便性の向上の一方、交通弱者や情報弱者、経済的な格差など従来の社会保障の視点の見直し

市民アンケートから

- 地域活動や行事への参加は
「している」66%、「していない」27%
- 市の将来人口については
「増加意向」66%、「現状維持」23%
「減少もやむなし」8.3%
- 産業の取り組みは
「優良企業の誘致」41%
「大型店舗の誘致」23%
「入浴等保養施設の整備」20%
「工業地の整備」20%など
- 広報大月を
「毎月読む」人は61%
「ホームページを見ている」人は23%
- 市の情報が充分伝達されていると
「思う」12%、「思わない」31%
- 今後、重視すべきキーワードは、
「福祉」26%、「自然」26%、「活気」25%
「子育て」17%、「定住」17%、「環境」16%
「産業」15%など
- 市の住良さについては
「住みよい(肯定派)」32%
「住みにくい(否定派)」38%
- 今後の居住意向は
「市内居住意向」69%
「市外への転出意向」29%

①地域の現況(10年間で良くなったところ)

1. 福祉・保健の充実

- 特別養護老人ホームやデイサービスセンター等が多く開設されるなど、介護サービスが充実した
- 大月市立中央病院の改修

2. 教育・文化の充実

- 学校の統廃合により、子どもの競争心や探究心が生まれ、活気が出てきた
- 笹子追分人形の伝承会ができ、講演会等が盛んに開催されるようになった

3. 都市整備の進展

- 大月駅前が綺麗(華やか)になり、観光客が増えた
- 桂川ウエルネスパークの整備で、子どもが遊べ、人々が集う場所ができた
- 大月バイパスの開通により、街中の渋滞が緩和され、利便性が良くなった
- 松姫トンネルが開通し、小菅村との連携が図れた

4. 産業・観光の振興

- 若い人から高齢者まで、登山者の増加
- トレイルランや軽トラ市などのイベントが増加し、市外の人に大月市を知ってもらえる機会が増えた
- HPやSNSが活用され、広報の内容が分かり易くなった
- 大月駅周辺の外国人観光客増加
- 大月市で桃太郎サミットが開催
- 地域おこし協力隊と地域の人たちとの良い関係が構築され、地域が活性化されてきた

5. 人口減少への対応

- 桂台等の住宅地整備が定住者の促進に繋がった

①地域の現況(10年間で悪くなったところ)

1. 福祉・保健面の問題点

- 高齢者施設のハード面は整備されたが、声掛けや見守りなどのソフト面ができていない

2. 都市整備上の問題点

- 大月バイパス開通で大月市が通過点になってしまった
- 学生が集える場所(オープンスペースなど)がない
- 高齢者が集うコミュニティ施設がない

3. 人口減少による悪影響

- 人口が減少している(少子高齢化が進んでいる)
- 若者が働ける場所がない
- 小中学校統廃合により、地域の子どものお年寄りの繋がりが希薄になった

4. 産業・観光面の問題点

- 個人商店が減少した

②地域の資源と可能性**1. 産業・観光に活かせる資源**

- 桃太郎伝説を利用して観光の振興を図る
- 大月駅北口に公共施設（スーパー銭湯や運動施設など）を作り活性化
- 猿橋、岩殿山など、点在する観光スポットを線で結ぶ
- おつけ団子など大月ならではの食べ物のブランド化を図る
- 金剛杖に焼印をするスタンプラリーを行い、達成した登山客に記念品を渡す
- 秀麗富嶽十二景と富士山を絡めた観光整備など、自然環境を活かした施策を講じ、集客につなげる（特に外国人に対して）
- 「私のお酒造りプロジェクト」のように、大月短大の学生の知恵を活かした産業振興を図る
- 大月市の交通の利便性を地域の特性としてPRする
- 学校の閉校跡地（特に国道20号沿い）を活用する

2. 空家・空き店舗

- 空家を民泊として活用し、観光客が市に留まる場所を作る
- 空家をコミュニティスペースとして活用し、住民同士の交流を図る

3. 福祉・保健

- 元気で暮らせる健康づくりの施設（皆が自由に使えるコミュニティ施設）の充実を図る
- 元気だが一人で暮らすのが苦手な高齢者は、サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどに住んでいる。大月市もそのような施設を整備し、人口減少に歯止めをかける
- 元気な高齢者（アクティブシニア）が、地域の防犯・防災・福祉などを支えられる活動ができるように、市がサポートする

4. 教育・文化

- 高齢者からのふるさと教育や伝統の継承の実施
- 笹子追分人形や観光資源など、地域の文化や伝統行事を後世に伝える

5. 人口減少対策

- 一人暮らし（非学生）や子育て世帯が住む住居が増えれば、少子化対策になり人口増に繋がる

③地域課題**1. 産業・観光の振興**

- 観光地にWi-Fiを整備し、外国人観光客の利便性向上を図るとともに、観光情報を取得しやすい環境をつくる
- 自然や伝統を活かした観光振興を図る
- 桜や岩殿城址、ふれあいの館など、岩殿山の魅力をもっとPRし、観光客増加につなげる
- 旧笹子小学校跡地を活用し川で遊べるような施設をつくる
- 桂川ウェルネスパークで、体験型の施設や夏限定の宿泊体験施設、四季の花が見られる歌壇などを企画し、市外に向けてPRする
- トイレや入浴施設、宿泊施設などを整備する（民間ではなく市で設置も検討）
- スタンプラリーなど、リピーターを増やす施策を企画する
- 大月桃太郎伝説を観光に利用する
- 観光スポットをつないで、観光ルートをつくる
- 甲州市を手本に、市内にフットパスコースをつくる
- 市職員がキャラクターになりきって発信するなど、ホームページやSNSなどを活用し、市の情報発信力を向上させる

2. 都市整備の推進

- 空家などを活用し、市民が集える場所をつくる
- 学校跡地や大月駅北口などを有効活用する
- Wi-Fiを災害時対応として利用する
- 駐車スペースの確保や大型施設の整備などを行い、通過するのではなく、市内に滞留しやすい環境をつくる

3. 地域の活性化

- 高齢者にコミュニティスペースの管理をしてもらい、同時に子ども達への伝統文化教育も行ってもらう
- 地域のつながりを強くする
- 子どもが遊べる場をつくったり三世代が交流できる場をつくるなど、子育て力を向上させつつ、市民全体で子どもを見守るようにする

④今後10年間の重点取り組み**1. 大月市の良さを一人ひとりが発信できる仕組みづくり**

- SNSを活用し、大月市のファン等と積極的に関係を結んでいく
- ツイッターやInstagramなどを利用した情報発信方法の充実

2. 地域のつながりが強いまちづくり

- 高齢者などの人材を活用し、市民が集える場所を整備する

3. 大月市に住み続けたいくなるまちづくり

- 給食費や教育費の無料化など、子育て世帯がゆとりを持って施策を実施する

4. 高齢者に優しいまちづくり

- アクティブシニアのさまざまな事業への参画を促進する
- 支援が必要な高齢者に対して、福祉を拡充する

5. 企業誘致

- 大月駅北口の空き地などを活用し、企業を誘致する

6. 大月市の良さを活かすまちづくり

- さまざまな人が考える大月の良さを紹介し、大月市の良さを市内外に発信する

●他グループの視点を参考に追加した項目

- 大月市に住んでいる人を留めるための施策
- 大月IC周辺の整備
- 道の駅
- 庁舎建て替え
- 空き店舗活用
- 市民の若い力を活用
- 通勤費用の補助
- 駅周辺の整備(コンパクトシティ)

⑤地域づくりの方向性(キーワード)

ひと、自然、文化と教育、つながり、にぎわい、安心、安住



⑥大月の将来像(テーマ)

(案1)ひとと自然をつなげる『安住都市』おおつき

(案2)安住都市おおつき ~ひとと自然をつなげる~



ひとと自然をつなげる『安住都市』おおつき